

平成20年第17週  
(4月21日～4月27日)

# 京都市感染症週報

## 今週のコメント

- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は1.37で、過去5年平均値(0.72)を上回っています。
- ・ レジオネラ症の報告が1例あり、本年の累積報告数は10例となっています。10例の内訳は、男性6例、女性4例で、すべて60歳以上の報告です。
- ・ アメーバ赤痢の報告が1例あり、本年の累積報告数は8例となっています。8例の内訳は、男性7例、女性1例で、推定感染経路は、性行為感染が7例、不明が1例です。
- ・ 麻しんの報告が1例あり、本年の累積報告数は13例となっています。13例の内訳は、男性9例、女性4例で、年齢階級別では、0～9歳が3例、10～19歳が6例、20～29歳が2例、30歳以上が2例です。

## 今週のトピックス:<手足口病>

- ・ 定点当たり報告数は0.56で、第2週以降、過去5年平均値を上回る状態が続いています。詳細をトピックスに掲載しています。

## 発生状況

### 全数報告の感染症

- ・ 二類:結核 3例(喀痰塗抹陽性2例,無症状病原体保有者 なし)  
[1月以降の累積報告数 97例(喀痰塗抹陽性 32例,無症状病原体保有者 7例)]
- ・ 四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例(第16週追加報告分)[1月以降の累積報告数 10例]
- ・ 五類:麻しん 1例(第16週追加報告分)[1月以降の累積報告数 13例]
- ・ 五類:アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例[1月以降の累積報告数 8例]

### 定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68,小児科定点41,眼科定点10,基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.29	20
小児科 (降順5位まで)	感染性胃腸炎	7.00	287
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.37	56
	水痘	0.95	39
	手足口病	0.56	23
眼科	突発性発しん	0.34	14
	流行性角結膜炎	0.00	0

### 病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、咽頭ぬぐい液をNP,糞便をFC,髄液をSF,尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
アデノウイルス2型 (1)	かぜ症候群(第9週)	NP	インフルエンザウイルスC型(1)	ヘルペス口内炎・歯肉炎 (第9週)	NP
単純ヘルペスウイルス1型(1)	ヘルペス口内炎・歯肉炎 (第9週)	NP			

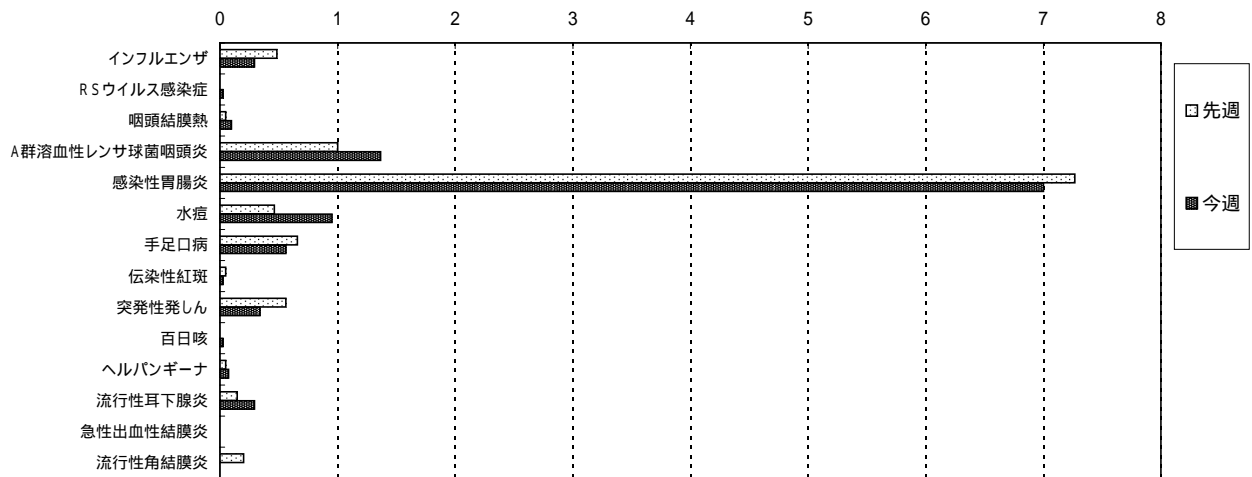
### 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<手足口病>

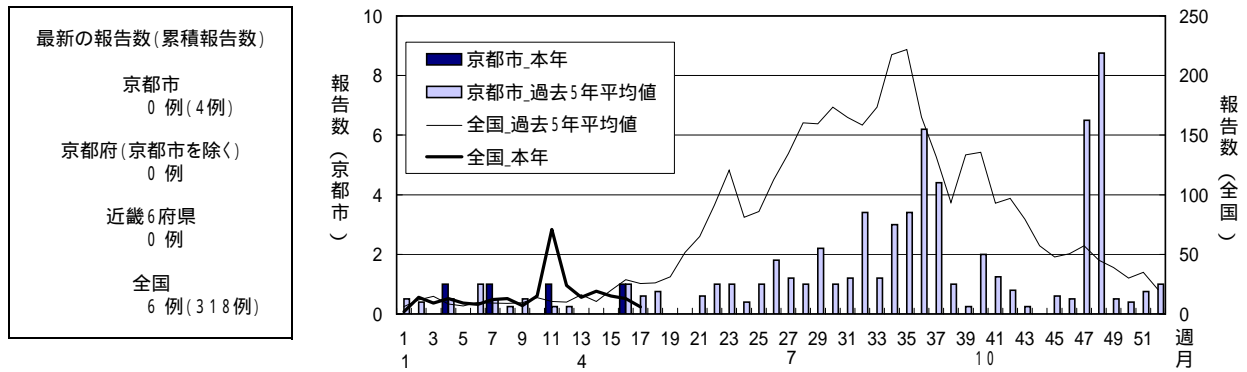
(注)京都市のデータは、平成20年5月9日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。  
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

# 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第17週)と先週(第16週)の定点当たり報告数の比較

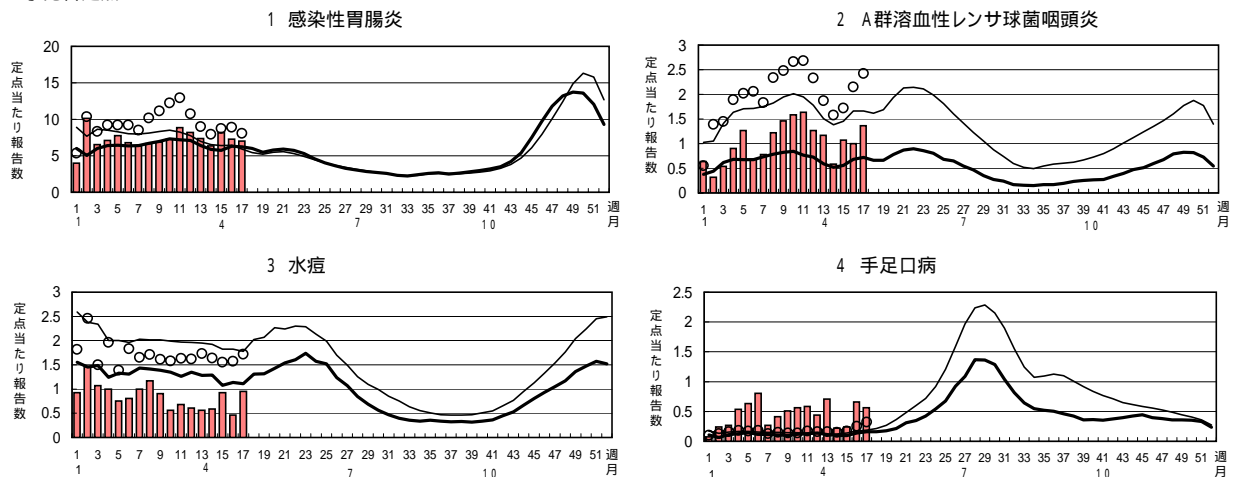


## 2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

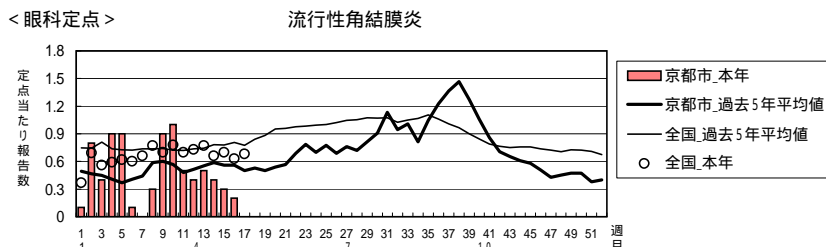


## 3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



# 今週(第17週)のトピックス: <手足口病>

手足口病の第17週の定点当たり報告数は0.56で、第2週以降、過去5年平均値を上回る状態が続いています。(第17週の過去5年平均値 0.16)

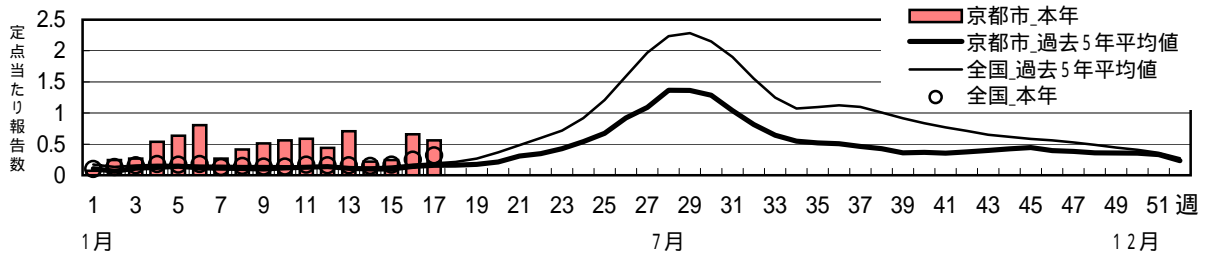
手足口病は、季節性が明確で、日本では6～9月ごろに報告数が増加します。

コクサッキーA群10型、16型、エンテロウイルス71型などが病因となり、それぞれが数年周期で入れ替わるため、流行年と非流行年がみられます。

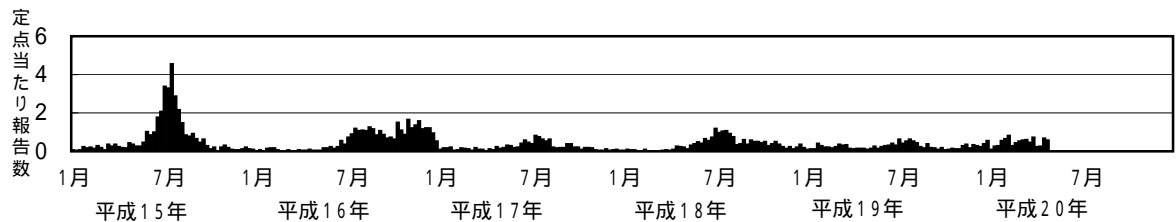
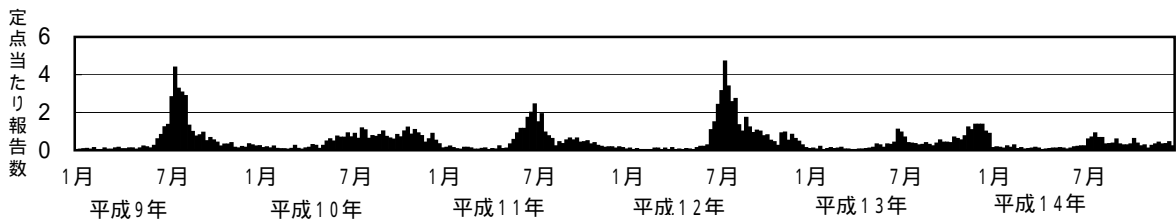
平成9年以降の、京都市での定点当たり報告数の推移をみると、平成9年、平成12年、平成15年と、3年周期で流行がみられましたが、それ以降、平成19年までは、大きな流行はみられていません。

最近5週の行政区別定点当たり報告数では、西京、南からの報告が多くなっています。

定点当たり報告数の推移(平成20年第1週～第17週)



京都市における定点当たり報告数の推移(平成9年～平成20年第17週)



最近5週の行政区別定点当たり報告数の推移

